緊急連絡先

制　作　物産アニマルヘルス株式会社

3307AH

コンセーブ®錠を処方された飼い主さんへ

犬のてんかんのお話

監修：渡辺直之先生（渡辺動物病院 会長）

症状・検査・治療がわかる
便利Mook

カルテNo.

飼い主さんのお名前

ペットのお名前

index

ページ
3 はじめに
4 発作が起きた時には！
4 飼い主さんへのお願い
5 てんかんについて
7 てんかんの診断と治療について
7 検査の流れ
10 治療
11 お薬の血中濃度の測定について
11 てんかんのお薬「コンセーブ®錠」について
12 てんかんの治療記録について
13 Q&A
14 コンセーブ®錠ご使用の際の注意点

はじめに

犬のてんかんとは、けいれんの発作が不定期に、繰り返し起こる病気です。てんかんは、残念ながら治る病気ではありません。ただし、定期的にお薬を飲み、発作を起こす回数や症状の程度を抑えていけば、ふだん通り生活することも可能です。

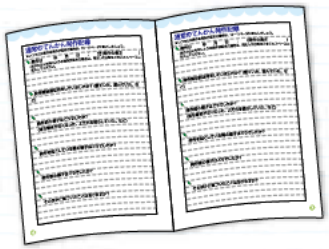
この冊子では、てんかんの症状や検査の方法、治療に関する注意点、また愛犬に発作が起きてしまった場合の対処法などを紹介しています。愛犬と根気よく治療を続けていくためにも、ぜひ本書をお役立てください。

発作が起きた時には！

- 愛犬に発作が起きた時は、あわてて抱き上げるなどはせずに、落ち着いて様子を観察するようにしてください。
- 発作を起こしている間にまわりの物にぶつからないよう、クッションなどを置いて体を保護してあげてください。また、噛まれるおそれがあるので、口の中に手などは入れないでください。
- 発作が止まらない場合は、かかりつけの動物病院に連れて行ってください。
- 診断の参考になるので、可能であれば、携帯電話やスマートフォンなどで発作の様子を動画撮影してください。

飼い主さんへのお願い

- てんかんのお薬は、発作が起きていなくても必ず投与してください。



- 犬のてんかん発作の状況などを記録する「犬のてんかん日記」は、お薬の効果や副作用を確認するためにも大切です。毎日欠かさずつけるよう習慣づけましょう。

てんかんについて

てんかんとは、不定期に繰り返し起こる発作を主な症状とする、脳の慢性的な病気です。

分類

てんかんは、脳に病気などの異常が見つからないのに発作を繰り返す**特発性てんかん**（とくはつせい）、脳の病気にともなって発作が生じる**構造的てんかん**（こうぞうてき）の2つに分類されます。

	特発性てんかん	構造的てんかん
特徴	●脳に異常は見つからないが発作を繰り返す ●遺伝的な要素が原因と考えられている ●1～5歳に多くみられる	●脳の異常（病気や事故などの後遺症）により引き起こされる ●1歳未満、6歳以上に多くみられる
治療方法	●てんかんを抑えるお薬を使って治療する	●発作を引き起こす原因になっている病気を治療する

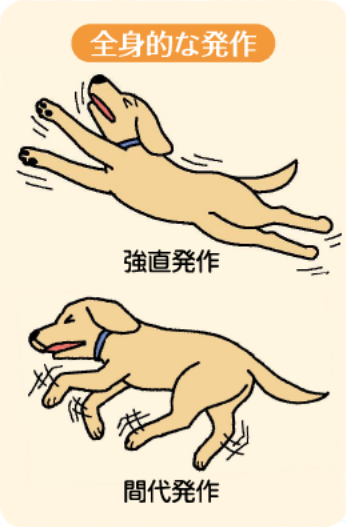
疫学

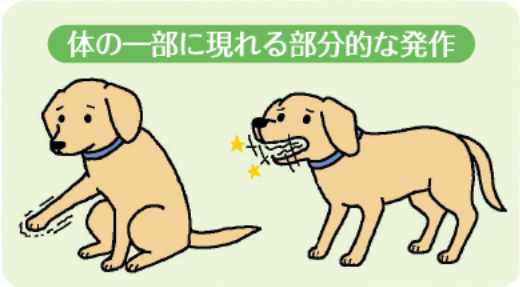
犬のてんかんの発症率は、日本では1～2%といわれており、てんかんになりやすい犬種は、ビーグル、ダックスフント、プードル、シェルティー、シェパード、テリア系、レトリバー系などです。

1～ 5歳は特発性てんかんが多く、それ以外の年齢では構造的てんかんが多いといわれています。

症状

代表的な症状は、全身がピーンとつっぱり、けいれんする強直発作と、全身がガクガクとけいれんする間代発作です。そのほかに、例えば口だけをパクパク動かしたり、一本の足だけがピクピク動くなど、体の一部のみに症状が現れる発作もあります。





てんかんの発作をよく観察すると、①発作前症状、②発作、③発作後症状の順に進行し、その後普通の状態に戻ります。各段階の症状は、ワンちゃんによってさまざまなものがあります。

てんかんの診断と治療について

てんかん様の発作を起こす病気には、「てんかん」と「てんかん以外の病気」があります。これらを区別するには、(1)～(3) の検査が必要です。また、脳の病気が強く疑われる場合や、飼い主さんがお望みの場合などでは、(4)、(5) の検査を行います。

検査の流れ

(1) 問診

1. 基礎情報の確認（ごはんは何を食べているか、ワクチン接種歴、フィラリア、ノミ・ダニの予防歴、飲んでいるお薬など）
2. てんかん発作の初発（初めて起きた）年齢、発作時の状況や状態、発作の重症度などの確認

(2) 身体検査

❶既往歴（糖尿病や心臓、肝臓、腎臓などに病気がないかどうか）の確認をします。

❷神経学的検査

神経の反射や知覚などの状態を調べます。特発性てんかんでは、この検査で異常は認められませんが、構造的てんかんの場合は異常が認められます。脳の病気がないかどうか確かめるためにも、この検査は定期的に受けることが望ましいです。

※神経学的検査で異常がみつかったら、(4)の画像検査をすることをおすすめします。

(3) 生化学的検査

血液スクリーニング検査、尿検査

- これらの検査で、てんかん以外の病気（代謝性疾患、炎症性疾患、感染性疾患など）の診断ができます。
- 初発の発作年齢が1歳未満の場合は肝機能検査、6歳以上では甲状腺ホルモン検査をすることもあります。

(4) 画像検査および脳脊髄液検査

脳の異常が疑われた場合、病気の部位をみるためにMRIなどの画像を撮影します。

(5) 脳波検査

脳の異常が疑われた場合は、脳波を記録して診断することもあります。

治療

てんかんの治療は、お薬を使って発作をコントロールする対症療法であり、てんかんそのものを治すわけではありません。

てんかん治療の目的は、1) 発作の繰り返しにより脳組織が損傷されるのを防ぐ、2) 発作が止まらなくなるのを防ぐ、3) 発作の回数を少なくする、4) 発作を軽くする、といった点にあります。

治療を行うことで、愛犬と飼い主さんの不安や苦痛をできるだけ和らげて、生活の質（Quality Of Life：QOL）をより良くすることが可能になります。

てんかんは、お薬によって症状をコントロールしていますので、きちんと飲み続けることが大事です。
お薬の量や、投与の時期は主治医の先生との約束を守ってください。

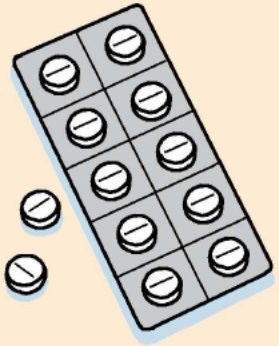
お薬の血中濃度の測定について

てんかんのお薬は、血液中の濃度が低くなると効果が弱まったり、逆に濃度が高すぎると副作用が出たりします。ワンちゃんによってお薬の血液中の濃度には時にばらつきが出ますので、半年に一度は、お薬が血液中にどのくらいあるか検査をしましょう。

お薬の効果がきちんと発揮されるように、また副作用が出ないようにするために、定期的にお薬の血中濃度を測定することは、てんかんの治療にとって、とても大切です。

てんかんのお薬「コンセーブ®錠」について

- 犬の特発性てんかんにおける部分的、および全般的な発作をコントロールするお薬です。
- てんかんのお薬は、てんかんそのものを治すわけではありませんが、発作のコントロールは重要です。お薬は毎日欠かさず投与してください。



てんかんの治療記録について

犬のてんかんを獣医師が正しく診断し、お薬の効果や副作用を確認するには、飼い主さんの日頃からの観察がとても大切です。「犬のてんかん日記」は、そのために必要な事項が6ヵ月分もれなく記入できるようまとめてありますので、発作が起きた時にはもちろん、発作が起きていない時でも、愛犬の体調について毎日記録するように心がけましょう。

※「犬のてんかん日記」は動物病院でもらうことができます。

発作の症状は、ワンちゃんによってそれぞれ異なります。正しい診断のためには、日記をつけるほかに、携帯電話やスマートフォンなどで発作の様子を動画撮影するのもよいでしょう。

獣医さんに聞きたいこと、話したいことなどを書いておきましょう。

Q&A

Q1 てんかんって何？

A1 「てんかん」とは病気の名前で、てんかん発作は「てんかん」の症状のことを指します。

Q2 てんかんは治るの？

A2 残念ながら、てんかんは治る病気ではありません。

てんかん治療の目的は、愛犬や飼い主さんの不安や苦痛をできるだけ和らげて、生活の質を高めることです。てんかんは、お薬による治療で発作をおよそ70～90%ほど抑えることが可能です。

Q3 てんかんの治療はお薬だけ？お薬を長い間飲んでいても大丈夫？

A3 現在のところ、てんかんはお薬による治療がほとんどです。

お薬は長期に飲まなければならないので、副作用を最低限に抑える必要があります。そのためにはまず、お薬が合っているかどうかを判断する必要があります。それには、お薬を飲み始めた後に、定期的にお薬の血中濃度の測定を行うなどして、健康状態に変化がないか確認します。

Q4 発作がない時はお薬をやめてもいいの？

A4 お薬は途中でやめないでください。

お薬を飲むことで発作を抑えていますので、急にお薬をやめると今まで抑えていた発作が再び起きてしまうおそれがあります。そうなると、今までのお薬では発作を抑え切れなくなったり、最悪の場合はそのまま死んでしまうこともあります。ですので、獣医師の指示がない限りは、途中でお薬をやめないでください。

Q5 お薬を飲んでいるのに、まだ発作が起こるのはどうして？

A5 いろいろな原因が考えられます。

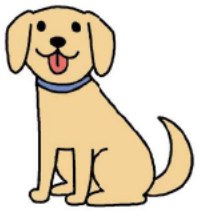
これはお薬の種類や量、飲んでいる期間、血中濃度などが適切でないのか、あるいはほかに原因があるのか、検査をしないことにはわかりません。発作が治まらない場合には、もう一度病気の原点に戻って検査をする必要があります。この時に「犬のてんかん日記」が診断の役に立ちますので、毎日欠かさずご記入ください。

Q6 お薬を飲ませ忘れた場合、
次の投与時に２回分投与してもいい？

A6 気づいた時点で１回分を投薬してください。

そして次回投薬するときは、４時間以上間隔を空けましょう。一度に２回分の投薬は絶対にしてはいけません。なお、間隔を４時間以上空けると翌日になってしまう場合は、翌日のなるべく早い時間帯に必ず投薬してください。

コンセーブ®錠ご使用の際の注意点

- ほかのてんかんのお薬と同様に、コンセーブ®錠に含まれるゾニサミドという成分には、人や動物においてお腹の赤ちゃんに影響を与えてしまう可能性があるという報告があります。お薬の取り扱いには十分に注意し、投薬後には必ず手を洗ってください。特に、妊娠している可能性のある女性や妊婦は、誤って口にしないように気をつけてください。また、お子様が誤って飲み込まないよう、お薬はお子様の手の届かないところに保管しましょう。万一、飲み込んでしまった場合には、ただちに医療機関を受診してください。
- コンセーブ®錠を投薬された犬の尿には、ゾニサミドが含まれていますので、尿は適切に処理し、処理後は手を洗ってください。

Memo